

4th APNG Camp 報告書
慶應義塾大学環境情報学部/JPNIC ng-tf
柴田 巧

2003/09/19

4th APNG Camp で果たした役割

1. 私は、今回の Camp で Co-Chair となり、Camp プログラムの作成、日本からの提案の遂行を行った。特に、前回のキャンプにて提案されたパラレルでのプログラム運営に伴い、より多くの関心分野を取り上げる必要があり、日本の JPNIC ng-tf メンバーと協議・協力の上、日本からは、Issue-oriented な6つのプログラム提案を行った。
2. また、プログラムの増大に伴い、より具体的なプログラムアジェンダを議論するグループを sub-divided committee と名づけ、ng-tf メンバーのコーディネーションの下、議論を進め、プログラムを構築した。
3. 前回、川上氏より提案があった、事前の詳細なプログラムアブストラクト作りと Web への繁荣については前者は達成できたが、後者はマンパワーの不足で会議前事前アップはできなかった。但し、プログラムの議論が参加者全員の入っている camp 全体 ML にて公開議論だったため、参加者との共有はある程度可能だったと思う。
4. さらに、Technology & Operation track のマネージャーとして、本トラックを見てみるとng-tf メンバーが勤めるコーディネーターの努力もあり、また Issue-oriented なテーマの選定もあり、継続的な交流、議論ができるような雰囲気構築できたと考えている。特に、IDN セッションでは、JP, KR, TW の其々の IDN 運用トライアルについての意見交換が進み、実務的な課題を共有していこうという雰囲気が生まれた。また VoIP セッションでは、系電話を用いたデモンストレーションを交えた分かりやすいプログラム構成で、初心者にも親しみやすいプログラムとなり、議論を誘発できたのかと思う。川上氏の話によると、TW の VoIP に興味を持っているグループと日本で近々議論をする場を設けるとのこと。Issue ありきのプログラム構成で継続性のある会になりつつある。

Camp を作っていく立場：Co-Chair としての目標と達成度

上記のような役割を果たした今回の4th camp だったが、参加前に上げた改善点だった、

1. 継続的な議論ができる仕組み、BOF の準備、2. Abstract の詳細化、3. インターネットオペレーションよりの track の運営 は、ほぼ達成できたと思う。AP* との合同レセプションにより、この指止まれる的に、夜 BOF を開催していた方々もいた。また個人目標であった各国のコンタクトパーソンとのコネクション作りも Co-Chair として参加することで、構築することができた。

今後の課題・反省

1. トラックをパラレルに進め、より具体的な Issue に目を向けたプログラム構成で、全体的に Tech. トラックに参加する人数が少なかった。
2. 参加者の希望に添ったプログラム構成というよりも、コミッティーが準備したプログラムに参加いただくという形となり、主体的に議論をする人の数が少人数となった。今後は、WG などから表明いただきという逆のプログラム作りが必要だろう。もちろん、イベントとしてコミッティーの用意するセッションプログラムがあっても良いとおもう。
3. ファンディングはどこの役割でどの位の規模であるのかを、各国が認識し、情報がクリアに提供される環境に無かった。
4. 日本、韓国、台湾、中国の参加者がほとんどで、その他の地域からの参加を促せなかった。フェローシッププログラム等を作り、広報にも力を入れる必要がある。